

## 全学部共通課題

### 〈全学部生対象〉

○ 次の文章を読んだ上で、以下の設問に答えてください。

#### 「建学の精神を新教育ビジョンに」

大学、とくに私立大学は、創立者の独自のミッション（理念・使命）を持っています。これを建学の精神といいます。このミッションは、長い歴史のなかで独自の校風をはぐくんできました。この大学のミッションが社会的な期待や要望と合致し、教育実績があがることで、その大学の位置づけや価値は向上します。

ビジョンとは、ミッションを具体化するための指標であり、具体的目標であるべきだと考えています。ミッションは普遍性を持ちますが、ビジョンは具体的な教育目標であり、社会や時代の変化に応じて適切に順応できるものでなければならないと考えています。周知のように、本学は大乗仏教精神を建学の理念（ミッション）としています。大乗仏教では「慈悲と智慧の実践」を人間の理想的生き方と考えます。そこで本学は、これを人が人として成長し、生きていく上での具体的指針とし、以下に掲げる4つのキーワードに集約しました。それが本学の新教育ビジョン（教育目標）「4つの人となる」です。

- 1、慈悲　　生きとし生けるものに親愛のこころを持てる人となる
- 2、自灯明　　真実を探求し、自らを頼りとして生きられる人となる
- 3、中道　　とらわれない心を育て、正しい生き方をできる人となる
- 4、共生　　共に生き、ともに目標達成の努力ができる人となる

これをさらに解説すると以下ようになります。

#### 1、慈悲（じひ）；

慈悲は大乗仏教の根本的な心です。生きとし生けるものに親愛の心を持てる人となることです。一言で言えば、相手の立場で考えることができるということです。慈悲の慈とは相手に対して利益や安楽を与える与楽のことで、悲とは相手の苦を取り除き、救済する抜苦のことで。

私たちは、誰でもかならず、この慈悲の心を持っています。けれども、どうしても自己中心になってしまいがちです。自分を大事にするのはある意味で当然のことですが、相手もやはりかけがえのない大事な存在です。お互いにかけてがえのない大事な存在である私たちですので、自分を大事にするのと同じように相手も大切にしなければいけないと思います。これが慈悲ということです。この思いやりの心を大事に育てていきたいと思います。

#### 2、自灯明（じとうみょう）；

自灯明とは、「自立せよ」、「自律せよ」と受け止めます。他に頼ることなく、自ら信念をもって生きます。そのためには「学べ」、「今学べ」、「学び続けよ」、「そしてよく考えよ」を戒めとして生きることが自立への道です。学び続けることによってこそ、「自立した人間」となることができるのです。

そのためには先ず、先人の智慧と知識から学ぶことが大切です。先人の教えを聞くことにより、考えることにより、そして実践することによって、また教職員、先輩、同窓生、後輩との出会いを通じて切磋琢磨することによって本当の自分に気づき、自律の道が開けてくるのです。

### 3、中道（ちゅうどう）；

とらわれない心を育て、かたよらない心をはぐくんで、正しい生き方をすることです。中道とは、右と左の真ん中をいくことではありません。そのときそのところで、最善にして適切な身の処し方をいいます。

学生が大学にある時は、「学びの姿勢や態度」「生活の姿勢や態度」を整えるとともに、正しい倫理観と道徳観を持った生き方や心構えを育むことで、これが学生の中道的な生き方です。

### 4、共生（きょうせい）；

「ともいき」と読むことができ、大正大学元学長であった近代の大仏教学者椎尾辨匡博士の提唱された言葉です。人と人とが共々に関わり合い、お互いに結ばれ合って、生かし生かされていることの意味です。現在では、広く社会に受け入れられて、人間の生き方の理念として一般化しています。同じ人として共に生き合い、生かされ合い、共々に正しい目標に向かって努力し、達成できるような人になることです。言い換えれば、「人間が社会的存在であることを自覚し、社会やコミュニティで起こる様々な問題を発見し、共に解決する知識と能力を身につけ、実践のために努力する人間になろう」ということです。

## 【設問】

I これまでの体験に照らし合わせて、「4つの人となる」をそれぞれどのように理解しましたか。各200字ずつで、仏教用語を使わずになるべく自分のことばで述べてください。

- ① 慈悲
- ② 自灯明
- ③ 中道
- ④ 共生

II 「4つの人となる」について考え、あなたにどのような「気づき」がありましたか。また、そのことを今後の自分の人生にどう活かしていけるとおもいますか。自分の考えるところを800字以内にまとめてください。

課題の形式 ;市販の400字詰めB4原稿用紙 縦書き 一枚ずつ半折り(右2ヵ所をホチキスとめ)

第1紙の右半分を表紙(「全学部共通課題」、「学科・コース」、「学籍番号」、「氏名」を記載)

問い合わせ先 ; 大正大学図書館長・仏教学部教授 小山典勇

t\_koyama@mail.tais.ac.jp

提出先 ; 「学科・コース別の課題」の提出日、提出先に、その課題とともに「全学部共通課題」も提出してください。

評価 ; コース別課題と共に総合評価し、6月中にフィードバックする予定です。